

連載企画

ぱれっと中期計画策定に向けて③

1月26日(土)、第3四半期理事会終了後、ぱれっとの5年後を見据えた「中期ビジョンを考える勉強会」が開かれました。参加したメンバーは、職員17名、理事8名、ぱれっと親の会から5名、たまり場ボランティアが4名、総勢34名が、3時間半に渡り、グループ討論を主体としたワークショップを行ないました。

はじめに、参加者全体で、3年前のぱれっと移転計画時の目標の振り返りを行ないました。新たな拠点ができたことで、「誰もがつながり新しい生き方」の創造ができていくか、色々な立場から意見が出ました。たまり場ボランティアからは、運営会議などはおかし屋店舗が使えるようになり、自分たちの拠点で話し合いができることで、より帰属意識が芽生えたこと。理事からは、バザーが無くなった分、地域にどのように足を付けて活動していくかが今後の課題だと提示されました。親からは、作業所利用者側から見れば、働く環境が改善され、グループホームも増え、今の時代のニーズに即した形で事業展開されてきているという評価を受けました。

●自分の思いを語る時間を持つ

今回の勉強会には二つの目的があります。一つに、参加者どうしよく知りあう時間を設けること、二つ目に参加者自ら声を出せる場とすること。グループワークを通じ、各々が「なぜ自分はぱれっとを選んだのか」(仕事としてボランティアとして…)「障がい者分野にかかわり自分は何を得ているか」かかわりの思いをお

互い出し合うことで、セクションを越えよりその人となりが見える、ゆったりとした時間が共有できました。

●ぱれっとビジョンへのキーワード

後半からは、これからぱれっとにどう関わって行きたいか、障がい福祉を根底に見据え、ぱれっとの事業や社会に求める理想像を語り合いました。「社会全体・ぱれっとの組織・個人」それぞれのカテゴリーに馳せる思いをポストイットで書き出していきます。各グループ内で出し合った思いを全体で共有するために、参加者が各テーブルを回り、それぞれのキーワードに質問をしたり共感したり、自分が興味深いものにチェックを入れます。最終的に、参加者の多くがチェックを入れたものを集計し、その傾向を分析しながらぱれっとのビジョンの具体的な文章化につなげていきます。

*****参加者からの感想*****

勉強会は職員、役員、ボランティア、親が7グループに分かれ、『ぱれっとのかかわりを通して、自分が思い描く理想』をテーマについて話し合う形式になっていました。私のグループは今回初めてお話しする方がほとんどでしたが、ぱれっととの関わりを含めた自己紹介で打ち解けることができました。テーマについてもそれぞれの活動を通して、ぱれっとがこうあって欲しい姿を伺い、親の立場とは違った意見を聞くことができました。その後は各グループのパネルを見て回り、説明を聞きながら気になった事柄に印をつけていきました。驚いたことは、

どのテーブルにもぱれっとを大事に思う意見が多くあることでした。もちろん現場は大変なこともあるのは話し合いの中からも感じましたが、みんなが大事に思っていてくださっている事を感じられて嬉しく思いました。次回は各グループで印のついた意見を集約して掘り下げていくそうです。皆が思い描くぱれっとがどのような形になるのか楽しみです。

(ぱれっと親の会 村上春奈)

初めて合同勉強会に参加しましたが、ぱれっとの現況及びぱれっとを形(かたち)作っている“人”について理解を深める事が出来ました。「気楽に話していいよ」との事だったので、オフィスグリコのような“オフィスぱれっと”や、ぱれっとのお菓子の“非常食市場参入”など、壮大な?でも手の届きそうなアイデアがいくつも出されワクワクしました。せっかく出されたアイデアも空中分解してはもったいないと、米岡さんが『課題・アイデアシート』を作ってくださいましたので、今後の勉強会における活用は勿論、このように、1つ1つ行動に繋げて行けたらと思います。各チームで話し合った結果を説明する中で「ぱれっとがあってよかったね、と言われる集団にしたい」という将来のありたい姿をお聞きし、多くの環境変化に明るく果敢にチャレンジしてきた結果、確かにそんな集団になっているな、とあらためて感じました。

今回の勉強会で「利益を得て事業を更に進化させ、内外から今以上に求められる集団になりたい」と願う気持ちが共有

出来、少しぼんやりしていた未来像が明確になった気がします。

(理事 藤井志保)

普段は「たまり場」の活動にしか参加していないので中々他のセクションの様子は分からなかったのですが、今回ホームやおかし屋の方々のお話しなども聞くことができ、とても有意義でした。また開放日などのたまり場行事にお子さんを参加させる保護者の方の想いも聞かせて頂いたことも大変参考になりました。将来に向けての展望や理想を書き出す場面では、漠然とした夢や希望を書くボランティアに対しより現実的具体的な案を提示される職員や保護者の方々と、立場の違いによって切り込み方の違いがあって新鮮でした。そして、そうした立場の違い、細かな部分で考え方の違いがあっても、最終的に「障がいをもつ人々がよりよく生きられる社会」を目指して描く理想はほぼ共通していて、そこが様々な立場から「ぱれっと」に関わる人々に生まれる一体感の源であると感じました。またこうした機会があれば、是非参加したいと思います。ありがとうございました。

(たまり場ボランティア 渡辺 文)

次回のつうしんでは、第一回勉強会で出されたキーワードを集計し、策定委員会で傾向を分析しながら、第二回の全体会でどう進めていくか、その過程を報告致します。最終的には、7月の第3回全体会で中期ビジョンの文章化を目指します。

(理事長 相馬宏昭)